

道徳教育均質化志向尺度作成の試み

* 越 中 康 治 ・ ** 目久田 純 一

Development of a scale to measure an orientation for the homogenized moral education

ETCHU Koji and MEKUTA Jun-ichi

Abstract

In the present study, a scale to measure the orientation towards homogenizing moral education from government to school and home was developed. Teachers completed a questionnaire assessing moral education homogenization orientation, authoritarian conservatism, and attitude toward introducing moral education as a special subject. Principal component analysis and confirmatory factor analysis indicated that the homogenization orientation scale was composed of 5 items with a 1-factor model. The internal consistency was indicated by calculating Cronbach's α , and its concurrent validity was demonstrated through the evidence that homogenization orientation was positively correlated with conservatism and admiration for moral education as a special subject.

Key words : an orientation for the homogenized moral education
authoritarian conservatism
moral education as a special subject

I. 問題と目的

道徳の教科化が決まり、日本の道徳教育は大きな転換点を迎えようとしている(松尾, 2016)。道徳の教科化について、文部科学省(2015)は、“特定の価値観を押し付けたり、主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にある”(中央教育審議会, 2014, p.3)との答申を踏まえたものと説明している。しかしながら、“「道徳」の教科化に伴う一律的な性質は、道徳が持つ民主的原則を侵害し、道徳的思考の多様性を縮小させる”(岡田, 2015, p.67)といった批判や“義務教育段階における宗教系私立学校の存在意義を毀損するような過度の均質化に向かうこと”(中村, 2015, p.257)への

懸念なども数多く示されている。また、例えば、道徳の教科化にさきがけての『私たちの道徳』の導入の意図については、「政局がらみの教科化」というポリティカルな要素に加えて、「家庭教育の道徳化」(家庭教育への政治的な介入)という要素があるとも指摘されている(時津, 2015)。

このように、道徳の教科化に対しては、国から学校へ、学校から家庭へと統制を強めようとしているとの懸念も示されている一方で、こうした動きを歓迎する向きもあり、そのとらえ方は一様でない。例えば、現職教員等を対象とした意識調査(越中, 2016)では、道徳の教科化について、小・中学校教員の約4割が「非常に好ましくない」または「好ましくない」、4割強が「どちらとも言えない」と回答する一方で、「非常に好

* 学校教育講座

** 梅花女子大学心理こども学部

ましい」または「好ましい」という回答も2割弱は見られることが示されている。また、教科化に対する賛否の理由づけでは、否定的な立場から、国からの押しつけや学校・教師の裁量の制限といったことへの懸念が示される一方で、肯定的な立場からは、家庭教育の価値観の多様化などを問題視して道徳教育について統一的な基準を求める意見も示されている(越中・目久田, 2016)。道徳教育を均質化することへの志向性は、教科化の受け止め方や現場における実践のあり方とも密接に関連すると考えられる。道徳教育の転換点に際して、多忙な教員を対象として、こうした志向性を測定する簡便な尺度の開発は喫緊の課題といえよう。

そこで本研究では、国から学校へ、学校から家庭へと道徳教育を均質化することへの志向性を測定する尺度の開発を試みる。また、併存的妥当性を検討するため、同尺度と権威主義的伝統主義尺度(敷島他, 2008)、道徳の教科化に対する態度、さらには学級経営観(中川・西山・高橋, 2009)との関連を分析する。道徳教育を均質化することへの志向性は、権威主義的伝統主義や道徳の教科化への肯定的な態度、さらには学級経営観の中でも「規範を重視した指導的な関わり」を重視する傾向と正の関連が得られることが予想される。

II. 方法

1. 調査対象者及び調査方法

2016年度に実施された教員向けの講習・研修の参加者を対象に質問紙調査を実施した。調査は講習等の冒頭で実施し、一斉に配布・回収した。調査は無記名式であり回答は任意であること、講習等の評価とは一切無関係であり質問紙を提出しなくても不利益は生じないことを明記し、口頭でも伝えた。結果として、166名の小学校教員から提出があった。そのうち必要な記載がなかったものを除外し、161名(男性64名、女性91名、不明6名)を分析の対象とした。分析対象者の平均年齢(年齢が無回答であった7名を除く)は42.83歳($SD = 10.04$, range: 24-60歳)であった。

2. 調査内容

調査内容は以下の通りであった。なお、(1)と(2)は全対象者に実施したが、(3)と(4)は各講習等にお

ける調査実施の都合上、一部にのみ実施した。(3)は147名、(4)は62名からの回答を得た。

(1) **道徳教育均質化志向尺度** 道徳の教科化に対する論評(中村, 2015; 岡田, 2015; 時津, 2015)や教師の意見(越中・目久田, 2016)等を参考に、道徳教育を均質化することへの志向性を測定する6項目を作成した(Table 1)。各項目について、「5. とてもあてはまる」～「1. まったくあてはまらない」の5件法で回答を求めた。

(2) **権威主義的伝統主義尺度** 敷島他(2008)の権威主義的伝統主義尺度5項目を用い、「6. とてもよくあてはまる」～「1. 全くあてはまらない」の6件法で回答を求めた。

(3) **道徳の教科化に対する態度** 越中(2016)を参考に、①道徳の教科化、②道徳に検定教科書を導入すること、③道徳で評価を行うことのそれぞれについて「5. 非常に好ましい」～「1. 非常に好ましくない」の5件法で回答を求めた。

(4) **学級経営観尺度** 中川他(2009)の学級経営観尺度20項目を用い、「6. 非常に重視する」～「1. 全く重視しない」の6件法で回答を求めた。なお、この尺度は、「規範を重視した指導的な関わり」と「心情を重視した受容的な関わり」の2つの下位尺度、各10項目からなっている。

III. 結果

道徳教育均質化志向を測定する6項目について、データの欠損のなかった161名を対象に主成分分析を実施したところ、項目3(学校は家庭教育や親のしつけにも指導・助言を行うことが望ましい)のみ主成分への負荷量が.40を下回っていた。そこで、項目3を削除し、再度主成分分析を実施した。その結果、第一主成分に対する寄与率は51.79%($KMO=.79$)であり、いずれの項目においても第一主成分に対する主成分負荷量が.60以上、MSAの値も.70以上であった(Table 1)。

次に、これらの5項目について確証的因子分析を行った。その結果、Hooper, Coughlan, & Mullen(2008)の提案する適合度基準を参照するとAGFIの値は十分ではなかったが、その他の指標の値は十分だった($\chi^2_{(5)}=8.62$, $p=0.125$, GFI=.98, AGFI=.93,

Table 1 道徳教育均質化志向尺度の主成分分析結果と基礎統計量 (N = 161)

項目番号	項目	主成分 負荷量	MSA	Mean	SD
2	道徳性とは何かを国が国民に対して示すことは大切だ。	.82	.75	3.24	0.92
4	国は家庭教育やしつけの正しいあり方を示すことが望ましい。	.80	.79	3.22	0.89
6	各学校・教師に対して国が道徳教育のあり方を示すことは大切だ。	.72	.82	3.47	0.92
5	道徳性とは何かを学校が各家庭に対して示すことは大切だ。	.62	.81	3.34	0.86
1	道徳教育の内容や方法は全国一律である方が好ましい。	.61	.78	2.79	0.92

Table 2 道徳教育均質化志向尺度と他変数の基礎統計量及び相関係数

	n	Mean	SD	2.	3	4	5	6	7
1. 均質化志向	161	16.04	3.23	.44 **	.41 **	.49 **	.35 †	.21 †	.01
2. 権威主義	161	14.29	3.44		.13	.16 †	.24 **	.28 **	.03
3. 教科化	147	2.73	0.88			.57 **	.53 **	.09	.24 †
4. 教科書	147	3.02	0.91				.56 **	.13	.12
5. 評価	147	2.27	0.88					.22	.22
6. 規範重視	62	48.85	5.32						.26 *
7. 心情重視	62	42.02	5.30						

** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

RMSEA=.07, CFI=.98, SRMR=.04, AIC = 28.63)。また、これらの5項目についてクロンバックの α 係数を算出したところ値は.76であり、一定の信頼性が確認された。なお、これらの5項目について、男性 ($M=16.22$, $SD=3.76$) と女性 ($M=15.81$, $SD=2.83$) との間に差は認められなかった ($t_{(111.02)} = 0.73$, $n.s.$)。また、対象者の年齢との相関係数を算出したところ有意な相関は認められなかった ($r=.10$, $n.s.$)。

さらに、道徳教育均質化志向尺度5項目の併存的妥当性を検討するために、他変数との相関係数を算出した (Table 2)。その結果、道徳教育均質化志向と権威主義的伝統主義 ($r=.44$, $p < .01$; 95% IC=.30-.55)、道徳の教科化 ($r=.41$, $p < .01$; 95% IC=.27-.54) 及び検定教科書の導入 ($r=.49$, $p < .01$; 95% IC=.36-.60) との間に有意な正の相関が示された。また、道徳で評価を行うこと ($r=.35$, $p < .10$; 95% IC =.20-.48) と規範重視の学級経営観 ($r=.21$, $p < .10$; 95% IC =-.04-.44) との間に正相関の有意傾向が示された。以上より、道徳教育均質化志向尺度の併存的妥当性が確認された。

IV. 考 察

本研究の目的は、国から学校へ、学校から家庭へと道徳教育を均質化することへの志向性を測定する尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検討することであった。教員を対象として、道徳教育均質化志向、権威主義的伝統主義、道徳の教科化に対する態度などを含む質問紙調査を実施した。主成分分析と確認的因子分析の結果、1因子5項目から成る道徳教育均質化志向尺度が構成された。道徳教育均質化志向尺度は高い α 係数を示し、十分な内的一貫性が認められた。また、道徳教育均質化志向尺度は当初の想定通り、権威主義的伝統主義や道徳の教科化に対する肯定的な態度と正の関連を有していた。以上より、道徳教育均質化志向尺度の併存的妥当性が確認された。

本研究において作成された尺度を用いて、今後は道徳の教科化に対する態度やパーソナリティ等との関連がより詳細に検討されることが期待される。また、本研究では小学校教員のみを対象としたが、道徳の教科化のもう一方の当事者ともいえる中学校教員も対象に含めた調査が求められるであろう。

引用文献

- 中央教育審議会 (2014). 道徳に係る教育課程の改善等について (答申) (平成26年10月) 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afiedfile/2014/10/21/1352890_1.pdf (2017年9月25日)
- 越中 康治 (2016). 道徳の教科化に対する教師・保育者及び学生の認識 (1) 宮城教育大学紀要, 51, 159-165.
- 越中 康治・目久田 純一 (2016). 道徳の教科化に対する教師・保育者及び学生の認識 (2) —テキストマイニングを用いた分析— 宮城教育大学紀要, 51, 167-176.
- Hooper, D., Coughlan, J., & Mullen, M. (2008). Structural equation modeling: Guidelines for determining model fit. *The Electronic Journal of Business Research Methods*, 6, 53-60.
- 松尾 直博 (2016). 道徳性と道徳教育に関する心理学的研究の展望—新しい時代の道徳教育に向けて— 教育心理学年報, 55, 165-182.
- 文部科学省 (2015). 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成27年7月 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2016/08/10/1375633_6.pdf (2017年9月25日)
- 中川 智之・西山 修・高橋 敏之 (2009). 幼保小の円滑な接続を支援する学級経営観尺度の開発 乳幼児教育学研究, 18, 1-10.
- 中村 英 (2015). 道徳の教科化とキリスト教系私立学校の苦悩 東北学院法学, 76, 270-257.
- 岡田 雄太 (2015). 「道徳」の教科化は本来の道徳教育の目的を目指すことができるのか 東京福祉大学・大学院紀要, 6 (1), 67-72.
- 敷島 千鶴・安藤 寿康・山形 伸二・尾崎 幸謙・高橋 雄介・野中 浩一 (2008). 権威主義的伝統主義の家族内伝達—遺伝か文化伝達か— 理論と方法, 23 (2), 105-126.
- 時津 啓 (2015). 小学校『私たちの道徳』の分析—その政治的文脈と内容との関係に注目して— 広島文化学園大学学芸学部紀要, 5, 29-39.

付 記

本研究は、日本発達心理学会第28回大会 (2017年) において発表したデータに、新たなデータを追加し、再分析したものである。また、本研究は、科研費 (15K17263) の助成を受けた。

(平成29年9月29日受理)